



「いかのおすし」と「ちゅらさん運動」イメージソング贈呈



子どもの犯罪被害防止の一環として防犯意識の高揚を図る目的で新地勝男糸満地区防犯協会副会長と仲野源明糸満警察署長、関係者一同が3月31日、八重瀬町役場を訪問し中村信吉町長に「いかのおすし」(子どもが犯罪に会わないための標語)が印字された下敷き350枚を贈呈しました。また、安全で安心な地域社会を実現するための県民運動「ちゅらさん運動」イメージソングが収録されたCDも5枚寄贈され、子どもや地域の安全推進について啓発を行いました。

交通安全お守りを寄贈

八重瀬町商工会女性部は、今年入学する町内の小学校1年生が交通事故にあわないことを祈願し、「交通安全お守り」を手作りで仕上げました。4月4日には、八重瀬町商工会員志堅イク子部長はじめ八重町商工会東恩納盛達さんなど関係者が町内4地区の小学校を訪問し「交通安全お守り」321名分を寄贈しました。具志堅さんは、「会員全員の気持ちを込めて作ったので将来につながると思います」と話しました。



正面左:具志堅イク子さん 右:我謝正和校長

全国高校総体 (インターハイ) シンボルマーク 仲座さんの作品に決定



仲座浩隆さん

2010年7月から8月にかけて全国高校総体(インターハイ)が沖縄県で開催されるにあたってシンボルマークデザインの募集を行ったところ八重瀬町字小城、仲座浩隆さんの作品が最優秀賞に選ばれました。仲座さんは、「情熱的な南国の花ハイビスカスをイメージしています。花びらの一枚一枚は、スポーツで花開く選手たちを表し、人を思いやり助け合う、優しい心を持ってプレーしてくれることを願ってハートの形にしました。選手1人ひとりが、この沖縄の地で伸び伸びと力を発揮し、皆の心に残る大会になるよう思いを込めて描きました」と作品に対する感想を話しています。



新一年生を迎える会として黒糖づくりをしました

後原では、さとうきびを生産している農家が多くきび畑を身近に感じることが出来る地域です。

今年、小学校入学を迎えた後原出身の子どもたちの歓迎会と地域の交流を目的に開催し今年で3年目を迎えました。参加者たちは、黒糖づくりを体験・試食を通し地域産業(農業)について学びながら交流を図ることができました。また、後原子ども会は、エコ活動にも積極的に昨年はごみ拾いやリサイクルバザーなどを行っていました。今回の黒糖づくり

今年、小学校入学を迎えた後原出身の子どもたちの歓迎会と地域の交流を目的に開催し今年で3年目を迎えました。参加者たちは、黒糖づくりを体験・試食を通し地域産業(農業)について学びながら交流を図ることができました。また、後原子ども会は、エコ活動にも積極的に昨年はごみ拾いやリサイクルバザーなどを行っていました。今回の黒糖づくり





虹亀商店で紅型体験を開催しました

志頭保育園園児12名。みんなエコバックのキヤンパスに思い思いの色をつけてオリジナルの作品を完成させました。初めて紅型を体験した松堂有治君は、「お絵かきがとっても楽しかった」と満足げに話し手形や足形をとって染めるなどユニークな作品に仕上げました。

紅型体験を指導したのは、虹亀商店を経営している亀谷明日香さん。あらかじめ用意したエコバックに園児たちが通う太陽組にちなんで太陽の下絵を描きその上から色を塗っていくよう指導しました。亀谷さんは、「紅型は手軽に色をつけて遊び感覚ででき、いろいろな色を組み合わせてオリジナルの作品に仕上げられます」と紅型の魅力について話しました。今後、虹亀商店では紅型を多くの人に伝えていきたいと紅型体験を計画しています。亀谷さんは、「お店の敷地には、カフェや休めるテラスもあるので気軽に足を運んでもらいたい」と多くの人に呼びかけていきたいと話しました。



卒園記念にエコバックを園児たちにつくってもらおうと3月13日、昨年11月にオープンした虹亀商店で紅型体験が行われました。紅型体験に参加したのは、3月で卒園を迎える具



虹亀商店を経営する
亀谷夫婦

亜細亜大学硬式野球部 による少年野球教室開催

2月19日から3月9日の期間、東風平野球場をキャンプ地としている亜細亜大学硬式野球部が3月2日、少年野球教室を開催し、町内8つの少年野球チーム約150名が参加しました。少年野球教室では、亜細亜大学の選手と一緒にキャッチボールをしたり、バッティングをするなど野球の基礎的なところから丁寧



に教えてもらい少年たちにとっては勉強になる一日となりました。

ひよこクラブ調理実習開催

具志頭児童館で子育てについて学ぶひよこクラブの親子15組が2月28日（木）社会福祉会館1階調理室で調理実習を行いました。当日は、町の栄養士さんの指導の下、野菜スープ、みそ納豆、牛乳を使った炊き込みご飯、さつまいものおやつ等バランスのよいメニューで参加したお母さんたちもとても勉強になったと喜んでいました。



災害救助犬とのふれあい事業

災害救助犬とのふれあい事業「NPO法人沖縄災害救助犬協会（幸喜馨理事）」が3月1日、具志頭陸上競技場で行われ、約80名が参加しました。参加者は、フリスビーや犬とのかけっこ等を通し犬と直にふれあう時間を楽しみました。また、災害があつたときどのように人を救助するのか実践してもらいました。隠れた子どもを訓練された救助犬が見事探し当てると参加者から大きな拍手が贈られました。最後には、セラピー犬とふれあう時間も設けられ子どもたちからは「かわいい」という歓声があがり大喜びの様子でした。

